

回廊は好む

本宮四之御柱

本宮三之御柱

検校庵

だより

04



新年のご挨拶



検校庵 住職 鈴木 恵道

令和四年、新年明けましておめでとうございます。

数え七年振り、いよいよ御柱の年がまいりました。

以前、県外の方に「なぜ御柱を立てるのでしょうか？」と聞かれて返答に困ったことがあります。

四本の柱を建てる意味については社屋の柱であるとか、先祖供養の為、結果であるなど諸説あるものの正確な由来は未だに分かraりません。

神林より御柱を切り出し、里へ運び、柱を建てる、これだけの事だけでも『千二百年以上も続く神事を継続するため』に行うことに、それ以上の理由は不要ではないかとさえ思います。

私自身はテレビを通した声の掛け合いながらも、山から曳いた柱が整然と建てられた姿を見届けた時に次の御柱祭りまでの大きな願掛けを終えたような気持ちになります。

一本の柱を運ぶために何千人もの人々が綱を引き、その様子を大勢で見守る御柱祭には、奇祭と呼ばれるだけの大きな魅力があるといえるでしょう。

織田信長によって上社が焼き打ちされた時や戦時中でも行われた行事は、コロナ禍による制限があれども本年も途切れることなく開催される予定です。

曹洞宗の修行僧は、道元禪師が御存命の頃と変わらぬ生活を現在も行っておりますが、その規則を「行持規範」と申します。

音の響きは同じですが、

【行事】 恒例として事を執り行なうこと。また、その事柄。催し事。

【行持】 仏祖の大道を修行し、永久に持続して懈怠させないこと。と意味合いが変わります。

千二百年以上続く神事は、大勢の氏子によって支えられてまいりました。

練習を繰り返して、命を懸けて神事に臨む若連の方々の中に、ただの催し事程度の覚悟で臨んでいる人はいないことでしょう。

私の目には「恒例行事」というよりも、「真剣行持」として映ります。

勿論、仏道修行と思い参加される訳ではないのですが、真剣に祭りに向かう衆の姿は観るものを圧倒する力があります。

令和四年は壬寅（みずのえ・とら）の歳となります。

「陽氣を孕み、春の胎動を助く」冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるという意味だそうです。

長引くコロナ禍を御柱祭の熱気が吹き飛ばしてくれることを切に願います。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



令和四年の行事予定



7月8日「^{せじきえ}施食会」10時

お盆の先祖供養と、新盆のご供養をする法要。(お施餓鬼とも呼ばれます) 共にご先祖様へ掌を合わせましょう。



3月15日「^{ねはんえ}涅槃会」10時半

お釈迦様の亡くなられた日に、そのご遺徳を偲ぶ法要。やしょうまを準備してお待ちしております。



12月3日「^{じょうどうえ}成道会」15時

お釈迦さまのお悟りをお祝いする法要。悟りに因んだお粥をお配りしております。



4月15日「^{けんぎょうさい}検校祭」11時

検校尊像の供養とお釈迦さまの誕生をお祝いする法要。「花祭り」を共に祝いましょう。

どなたでもご参加いただけます。仏の教えに触れてみませんか。法要を通して、

令和4年 法事年回表

1周忌	令和	3年	亡
3回忌	令和	2年	亡
7回忌	平成	28年	亡
13回忌	平成	22年	亡
17回忌	平成	18年	亡
23回忌	平成	12年	亡
27回忌	平成	8年	亡
33回忌	平成	2年	亡
50回忌	昭和	48年	亡
100回忌	大正	12年	亡

お寺をご利用ください

検校庵では、ご法事・通夜・お葬式・会食・勉強会・花見などの各種行事に昔からご利用いただいております。

お檀家さま・信者さまに限らず地域の方々に幅広くご利用いただくことが出来ますので、お気軽にお問い合わせください。

◆法事年回表とご先祖様の命日を見比べて、年回忌に当たっているかをご確認ください。

◆土・日・祝日にご法事を希望される場合、お早めにご連絡をお願いします。

◆本堂でのご法事・会食も可能ですので、是非ご利用ください。

自らも愛すべし、自らも敬うべし 藤田清隆

尊ぶべき身命

曹洞宗經典である「修証義・第五章行持報恩」の一節に、「此一日の身命は尊ぶべき身命なり、貴ぶべき形骸なり、此行持あらん身心自らも愛すべし、自らも敬うべし」とあります。

「身命」とは生命のこと、「形骸」とは肉体のこと。「行持」とは、仏の教えを信じた者の日々の暮らしを指し、精進を怠ることのない生活のことと云えます。

仏として一日を生きた自分は、尊ぶべき存在でありますので、仏陀と同じように生きることができた自分の身と心を愛してあげなさい、自分自身を敬ってあげなさい、という意味になります。

常日頃から仏さまのように穏やかな心持ちで過ごしたいと願うも

の、過ちを繰り返してしまおうのが私達です。

私共はなぜ、過ちを繰り返してしまおうのでしょうか？その原因を知ることが大切です。

西遊記に学ぶ

検校庵だより第01号のコラムにも書いたとおり、自分の心が乱れるのは「貪・瞋・癡の三毒」が原因とされており易く表現しているのが「西遊記」です。

詳細なストーリーは思い出せずとも、夏目雅子や堺正章が演じたドラマを思い出すことが出来る方は多いのではないのでしょうか？

孫悟空をはじめとするお供の三人こそ、三蔵法師（つまり、正しく生きようと願う仏教徒）自身ภายในに抱く煩惱そのものであると云えます。

猪八戒↓「貪」むさぼる心、欲望を止められない。孫悟空↓「瞋」怒りの心、抑えられない怒りや憎しみ。沙悟浄↓「痴」おろか、知識があっても智慧はない。

実はこの三人の名前にこそ、三毒を抑えるためのポイントが示されているのです。

猪八戒は「八戒」、へ八つの戒めが出来ます。

孫悟空は「悟空」、へ空を悟ることを悟ること、怒りを鎮める事が出来ます。

沙悟浄は「悟浄」、へ浄を悟ること、浄化された清らかな心を持つことで、知識が智慧となる事が出来るのです。

が難しい心の働きと云えます。

私達僧侶は煩惱の象徴として髪を定期的に剃っておりますが、この三毒は絶えることなく湧き出てまいります。

個性的な三人のお供を従えながら旅を進める物語は、私共の進むべき道とも言い換えることが出来るのではないのでしょうか。

まずは自らの心の内にあの三人が存在することを認識し、彼らを上手く抑えつつ生活することを心掛ける。失敗した時は反省すれば良いでしょう。そのように過ごすごの出来た一日こそ自らを敬い愛すべき一日となります。

「抑えるポイント」という表現が示す通り、全てを消し去ること

【表紙】八ヶ岳中央農業実践大学校敷地内に仮置きされた御用材

